

1. 建物概要

建物名称	(仮称)FMSF商業施設計画(ホテル・温浴棟)	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	-------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0	/5	ふつつ 
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5	ふつつ 
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.2	/5	ふつつ 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	ふつつ 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.0
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③【宿】カーテン・底による昼光制御 ④耐用年数の長い内装仕上げ材を使用 ④耐用年数の長い配管材を使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 特になし ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上材の分離が容易 ⑬GWP値の低い断熱材の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能	2.1 2.1.2 ① 外皮性能	2.1 2.1.2 ① 外皮性能
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備	3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備	3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備
	Q-1 3 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御	3.2 3.2.1 ③ 昼光制御	3.2 3.2.1 ③ 昼光制御
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数	2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数	2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数
	Q-2 2 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	Q-2 2 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	Q-2 2 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔
	Q-2 2 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔
	Q-2 2 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出	⑤ 生物環境の保全と創出	⑤ 生物環境の保全と創出
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 特になし ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上材の分離が容易 ⑬GWP値の低い断熱材の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制
	LR-1 2 ⑧ 自然エネルギー利用	⑧ 自然エネルギー利用	⑧ 自然エネルギー利用
	LR-1 3 ⑨ 設備システムの高効率化	⑨ 設備システムの高効率化	⑨ 設備システムの高効率化
	LR-1 4 4.1 ⑩ モニタリング	4.1 ⑩ モニタリング	4.1 ⑩ モニタリング
	LR-1 4 4.2 ⑩ 運用管理体制	4.2 ⑩ 運用管理体制	4.2 ⑩ 運用管理体制
	LR-2 1 1.1 ⑪ 節水	1.1 ⑪ 節水	1.1 ⑪ 節水
	LR-2 1 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無	1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無	1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無
	LR-2 2 2.1 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	2.1 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	2.1 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無
	LR-2 2 2.2 ⑫ 材料使用量の削減	2.2 ⑫ 材料使用量の削減	2.2 ⑫ 材料使用量の削減
	LR-2 2 2.3 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用	2.3 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用	2.3 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 特になし ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上材の分離が容易 ⑬GWP値の低い断熱材の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	LR-2 2 2.4 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	2.4 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	2.4 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用
	LR-2 2 2.5 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	2.5 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	2.5 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
	LR-2 2 2.6 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材	2.6 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材	2.6 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材
	LR-2 3 3.1 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	3.1 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	3.1 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み
	LR-2 3 3.2 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用	3.2 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用	3.2 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用
	LR-2 3 3.2.1 ⑬ 断熱材	3.2.1 ⑬ 断熱材	3.2.1 ⑬ 断熱材
	LR-2 3 3.2.2 ⑬ 断熱材	3.2.2 ⑬ 断熱材	3.2.2 ⑬ 断熱材
	LR-2 3 3.2.3 ⑬ 断熱材	3.2.3 ⑬ 断熱材	3.2.3 ⑬ 断熱材
	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮	⑭ 地球温暖化への配慮	⑭ 地球温暖化への配慮
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.2
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰二基以上の受水槽を設置 ⑰通信手段の多様化	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性	2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性	2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性
	Q-2 2 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能	2.1.2 ⑯ 免震・制振性能	2.1.2 ⑯ 免震・制振性能
	Q-2 2 2.4 ⑰ 空調・換気設備	2.4 ⑰ 空調・換気設備	2.4 ⑰ 空調・換気設備
	Q-2 2 2.4.1 ⑰ 給排水・衛生設備	2.4.1 ⑰ 給排水・衛生設備	2.4.1 ⑰ 給排水・衛生設備
	Q-2 2 2.4.2 ⑰ 電気設備	2.4.2 ⑰ 電気設備	2.4.2 ⑰ 電気設備
	Q-2 2 2.4.3 ⑰ 機械・配管支持方法	2.4.3 ⑰ 機械・配管支持方法	2.4.3 ⑰ 機械・配管支持方法
	Q-2 2 2.4.4 ⑰ 通信・情報設備	2.4.4 ⑰ 通信・情報設備	2.4.4 ⑰ 通信・情報設備
	Q-2 2 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	2.4.5 ⑰ 通信・情報設備
	Q-2 2 2.4.6 ⑰ 通信・情報設備	2.4.6 ⑰ 通信・情報設備	2.4.6 ⑰ 通信・情報設備
	Q-2 2 2.4.7 ⑰ 通信・情報設備	2.4.7 ⑰ 通信・情報設備	2.4.7 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.2
 ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高を確保することで将来の用途変更へ考慮 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑吹抜けによる中間領域の形成	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画
	Q-2 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり	3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり	3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり
	Q-2 3 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ	3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ	3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.0
 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤豊富な緑の量を確保 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出	⑤ 生物環境の保全と創出	⑤ 生物環境の保全と創出
	Q-3 2 ⑥ 緑化	⑥ 緑化	⑥ 緑化
	Q-3 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材	2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材	2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称		(仮称)FMSF商業施設計画(ホテル・温浴棟)	地上4F	
建設地		静岡県駿東郡小山町大御神字小玉沢121番28、外	RC造	
用途地域		市街化調整区域、22条指定区域	平均居住人員 400人	
地域区分		5地域	年間使用時間 8,760時間/年(想定値)	
建物用途		ホテル	評価の段階 実施設計段階評価	
竣工年		2026年12月 予定	評価の実施日 2025年3月28日	
敷地面積		12,295㎡	作成者 藤永 聖	
建築面積		3,346㎡	確認日	
延床面積		7,398㎡	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合

・これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。

・静岡県駿東郡小山町に建設される宿泊施設である。

・在来種を採用した植栽を各所に散りばめ、緑豊かなランドスケープを創造している。

その他

・

Q1 室内環境

・遮音性能のよいサッシを使用している。

Q2 サービス性能

・耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。

Q3 室外環境(敷地内)

・外構や中庭は生態系や生物多様性に配慮し、緑豊かな外部空間を確保している。

LR1 エネルギー

・LED照明設備など高効率設備により省エネルギー性に配慮し、熱負荷抑制に努めている。

LR2 資源・マテリアル

・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。

LR3 敷地外環境

・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される